（11）九　州

九州地域では、景気は<u>緩やかに回復している</u>。

- **鉱工業生産は<u>持ち直しの動きがみられる</u>。**
- **個人消費は<u>持ち直している</u>。**
- **雇用情勢は持ち直している。**

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（_は上方に変更、_は下方に変更）。

前回からの主要変更点

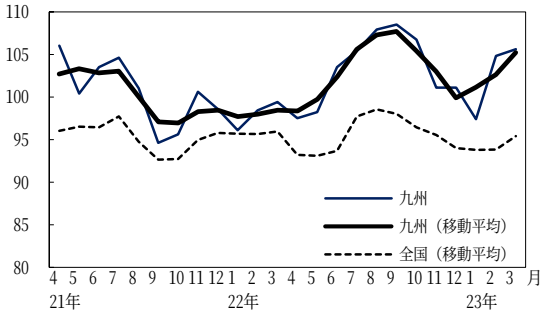
	前回（令和５年３月）	今回（令和５年５月）	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに回復している	↑
鉱工業生産	一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	↑

１．鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

１－３月期の鉱工業生産は、前期比0.4%減となった。月別にみると、１月は汎用・生産用・業務用機械が減少したこと等により前月比3.7%減、２月は輸送機械や汎用・生産用・業務用機械が増加したこと等により同7.6%増、３月は電気･情報通信機械が増加したこと等により同0.8%増となった。

鉱工業生産指数



（備考）１.2015年＝100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
２.全国及び九州の太線は中心３か月移動平均。
直近月は２か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値ウェイト	生産				
		10−12月期	1－3月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	13.6	4.5	▲0.4	9.0	▲4.0	▲0.4
輸送機械	13.5	▲13.4	9.2	▲5.1	28.8	▲0.2
食料品	12.2	▲0.1	0.7	▲0.5	2.1	0.2
汎用・生産用・業務用機械	12.2	▲13.0	▲4.1	▲14.7	24.4	▲3.2
化学・石油石炭製品	10.0	▲1.3	1.2	1.3	2.2	▲2.4
鉱工業	100.0	▲4.0	▲0.4	▲3.7	7.6	0.8

（備考）１.地域における付加価値ウェイトの高い５業種。
２.１－３月期、３月は速報値。

２．個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

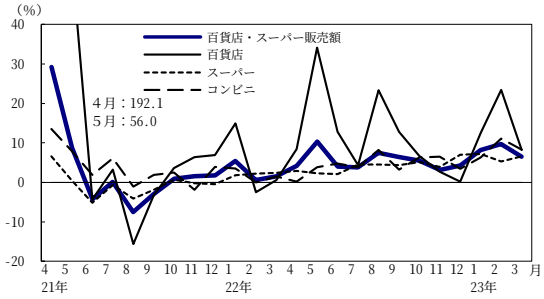
（１）地域別消費総合指数（ＲＤＥＩ（消費））

１－３月期は前期比 0.2%増となった。月別にみると、１月は前月比 0.3%減、２月は同 1.4%増、３月は同1.9%減となった。

（２）百貨店・スーパー販売額

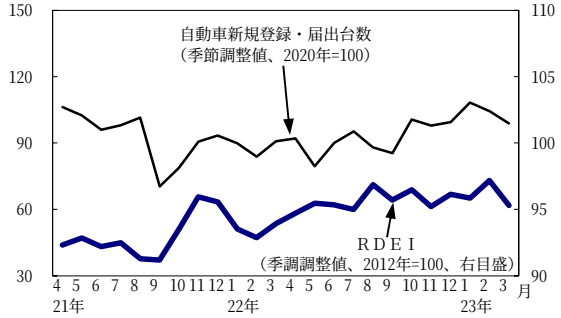
百貨店・スーパーは、１－３月期は前年同期比8.0%増となった。月別にみると、１月は前年同月比8.2%増、２月は同9.7%増、３月は同6.5%増となった。
百貨店は、１－３月期は前年同期比13.8%増となった。
スーパーは、１－３月期は同6.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
（店舗調整前、前年同月比）



	2023年1－3月	2023年1月	2月	3月
ＲＤＥＩ（消費*1)	0.2	▲0.3	1.4	▲1.9
百貨店・スーパー(*2)	8.0	8.2	9.7	6.5
百貨店(*3)	13.8	12.5	23.4	8.2
スーパー(*3)	6.4	7.2	5.3	6.6
コンビニ(*3)	8.5	6.3	11.1	8.3
乗用車(*4)	17.5	21.8	23.8	10.2
(季節調整値)（*4)	4.5	8.8	▲3.6	▲5.3

ＲＤＥＩ（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移



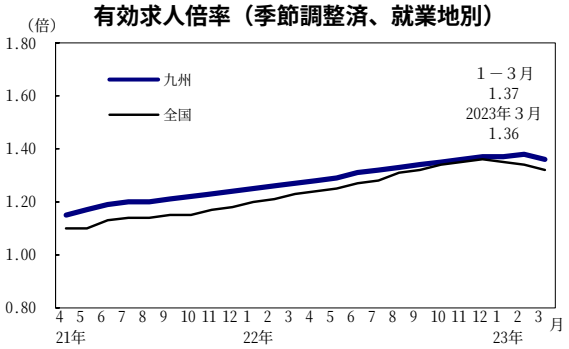
（備考）１．季節調整済前期(月)比（%）
２．店舗調整前、前年同期(月)比（%）
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
３．店舗調整前、前年同期(月)比（%）
百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。
コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。
４．乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

３．雇用情勢

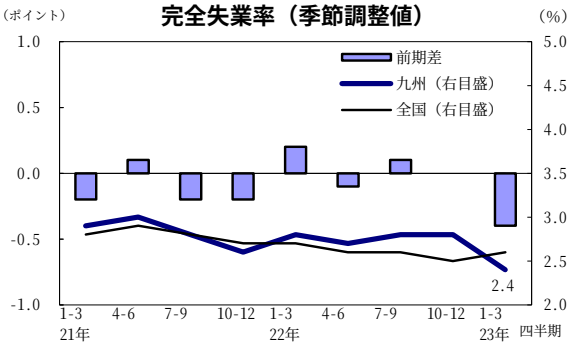
雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率（季節調整済、就業地別）



完全失業率（季節調整値）

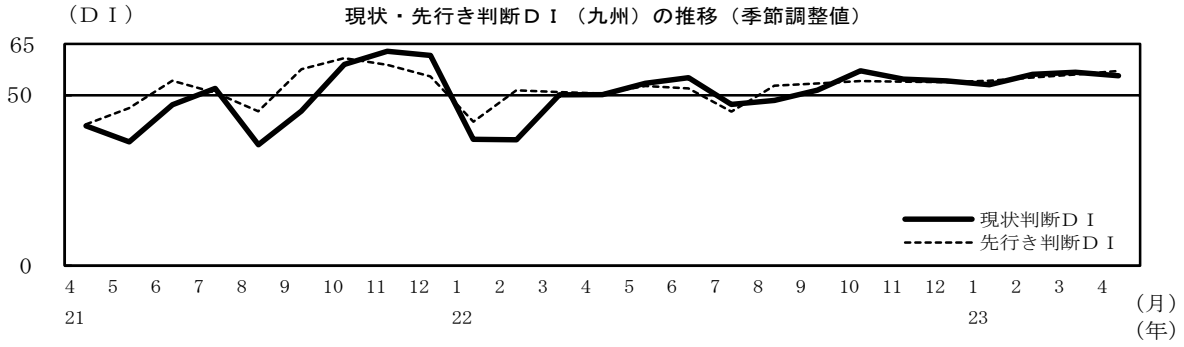


（備考）内閣府にて季節調整。

（13）景気ウォッチャー調査（令和５年４月調査）景気判断理由の概要

11. 九州

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	○	・３か月前と比較すると徐々に売上が良くなっている。暖かくなると外出が多くなり、おしゃれするようになる。そのため、店が忙しい状況になっている。客のマインドが明るくなっており、景気回復傾向である（美容室）。
		□	・食料品の値上げによる商品単価上昇等により、売上は前年比プラスで推移しているものの、来客数や買上点数で前年比を下回っており、決して良い状況ではない（スーパー）。
		▲	・来客数は前年と同じ数値で推移している。しかし、売上では値上げによる購入単価の上昇を予測していたが、購入単価の下落が続いている（家電量販店）。
	企業動向関連	□	・米国を始め諸外国の自動車産業の回復があり、自動車関連の輸出は回復傾向にある。しかし、食品や雑貨等の生活関連品は依然低調である。飲食関係も少しずつ回復しているが、消費者のニーズが以前のようになく、閉店時間も新型コロナウイルス感染症発生前より早くなっており、景気回復にはまだ時間が掛かる（輸送業）。
		○	・工場の縮小や外国人研修生の減少から、国内の生産能力が減り、メーカーの取り合いになっていくことが懸念される。先行して仕事の注文を受けていたため、安定した生産ができている（繊維工業）。
		▲	・ガスや電気の値上がりが著しく、加えて、陶土や原材料も値上がりしたため、２割ほど価格改定を希望しているが、市場として受け入れてもらうことが難しく、受注関係が若干落ち込んでいる（窯業・土石製品製造業）。
	雇用関連	□	・求人数が若干落ち着いているが、急激な減少ではなく、ほぼ毎月横ばいである（人材派遣会社）。
		○	・新型コロナウイルス感染症が落ち着くとともに観光客も増加しているが、新型コロナウイルス感染症発生前の人員体制の業種が多く、慢性的な人手不足で、求人広告を出しても人が集まらない状況だと経営者が嘆いている（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		◎：宿泊やレストランでは、国内外からの来館者が、３か月前と比べ増加している（都市型ホテル）。 ○：３か月前と比べると、海外旅行の販売量が増加している（旅行代理店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	○	・新型コロナウイルス感染症の影響が薄れつつある。催事の動員も良くなり、インバウンドの売上も徐々に回復傾向である（百貨店）。
		□	・これまで堅調であった高額品の動きがやや鈍くなっており、売上をけん引してきた客層が、外出や旅行への切替えを加速すると予想される（百貨店）。
		▲	・コロナ禍からの回復により、その他の業種との客の奪い合いで厳しくなっている（競馬場）。
	企業動向関連	□	・九州は特に半導体関連の投資が多く、企業進出が進んでいるものの、半導体需要も一時期と比較すると低調気味である。海外企業関連に期待する企業進出が増えており、他社に仕事を奪われないように先行投資が多い状況である（輸送業）。
		○	・物価高騰により影響はあるが、板金加工など一部特殊業務を除いて全体で引き合いが増加している（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	○	・商品や賃金の値上げが続き、人件費交渉もしやすい環境になっている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		◎：新年度に入り、販売数や来客数は安定している。今後も新型車投入が予定されており、多くの注文が期待できる（乗用車販売店）。 ○：全国旅行支援の終了により、宿泊者数は横ばいを想定しているが、新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ分類されることで、地元利用客の増加が見込まれる（観光型ホテル）。

現状・先行き判断ＤＩ（九州）の推移（季節調整値）